

令和6年度「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会」議事概要について

今年3月に「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画」を策定してから初めての開催となった今回の協議会では、計画策定から約半年間の構成員各社の取組状況を確認・共有したほか、目標達成に向けた進捗管理方法や検討体制についてご審議いただきました。

その結果、毎年度第1四半期に協議会を開催し、前年の排出量削減実績を管理していくことや、協議会の下に2つの検討部会を設置することが承認されました。

また、ENEOS株式会社様より、グループ全体の脱炭素化や水素サプライチェーン構築の取組について話題提供いただいたほか、県環境生活部からは、みやぎゼロカーボンチャレンジ2050戦略や次世代エネルギーの導入促進に向けた産官学連携の取組について情報提供を行いました。

県では今後、年間削減実績の見える化など適切な進捗管理に努めるとともに、今回設置された部会を活用しながら、省エネや次世代エネルギー転換など新たな取組の促進、港湾における供給体制の構築に向けて、引き続き、官民連携して取り組んでまいります。

<開催概要> ※詳細は資料を参照のこと。

日時：令和6年10月29日（火）

午前10時30分から正午まで

場所：仙台国際センター展示棟展示室1

出席者：構成員38者（WEB参加併用）

有識者、経済団体、港湾関係者、
立地企業、先進企業、国・関係市町

議事：

- 事業の取組状況について
- 進捗管理の方法について
- 検討部会の設置について

話題・情報提供：ENEOS株式会社、県環境生活部



写真. 開催状況

<議事に関する主な意見（要約）>

（有識者）メリット・デメリット、コストなどの情報も踏まえながら、誰がいつまでにどの位何をするのかというイメージをもう少し具体化する必要がある。

（有識者）CO₂の削減のみならず、労働時間削減や効率化も考慮されると良い。

（有識者）協議会内でも切磋琢磨が必要であり、各社の情報やデータを共有する仕組みづくりや見える化を検討していただきたい。

（エネルギー供給事業者）エネルギーサプライチェーンについては大きな課題と認識している。この協議会で各社と情報共有を図り、最善な取組の検討を進めていきたい。

（製造事業者）企業単体で取り組んでいる中、こうした情報共有により背中を押してもらえると感じた。他社の取組も参考にしながら円滑な導入に取り組んでいく。

（先進企業）天然ガスが普及した背景には、消費機器の技術開発の進展があった。次世代エネルギーに関しても同様であり、各メーカーは技術開発を急ぐ必要がある。